黄　色

平成２９年度

事　業　報　告　書

公益財団法人足立区生涯学習振興公社

経 営 方 針

公益財団法人足立区生涯学習振興公社（以下、公社）は、区民に学習、スポーツ及び文化活動の機会を提供するとともに、人材の育成や自主活動を支援する事業を行うことで生涯学習を推進し、「生き生きとした地域社会の創造」に寄与することを目的としている。

区は、平成２８年１０月策定の基本構想において、区のめざすべき将来像を「協創力でつくる活力にあふれ進化し続けるひと・まち足立」と掲げた。また、平成２８年２月策定の教育大綱では「夢や希望を信じて生き抜く人づくり」を基本理念とし、成人期の学びについて「自ら学ぶとともにその経験を社会に還元する意欲を育てる」としている。

公社はこれまでも、区民との協働による事業や学びの成果を地域に還元する事業を展開してきた。今後は、これらをさらに進化させ、「区民・地域・団体等との協創」により生涯学習を推進していく。子どもたちが多様な体験をする「あだち放課後子ども教室」は、児童期の生涯学習の場であるとともに、それを支える多くの大人の生涯学習の場でもあることから、引き続き中核事業として運営支援に取り組む。学習・スポーツ・文化については、区民の主体的な生涯学習を促すための人材育成及び活動支援事業を中心に展開し、活力ある地域活動につなげていく。

平成２９年度の事業計画及び予算編成にあたっては、平成２７年度に策定した「公社中期事業計画」に基づき、今後の公社職員の減員と自主財源の減少を見据え、事業の重点化と効率化を徹底して実施効果を上げ、区民サービスの向上に努める。

重 点 事 項

１　あだち放課後子ども教室の安定運営及び活動の充実に取り組む。

全校での週５日開催を安定的に継続するとともに、全学年実施校の拡大に向け、運営支援と課題解決に努める。

また、「足立区放課後子ども総合プラン」を踏まえ、体験プログラムの充実及び学童保育室との連携強化に取り組む。体験プログラムの実施にあたっては、区民や団体等との協創を進め、より魅力的な活動の場への発展をめざす。

２　学習・スポーツ・文化の人材育成及び活動支援に取り組む。

地域での主体的な活動を促すための人材育成及び活動支援事業を中心に取り組むことで、学習・スポーツ・文化活動における協創力を高め、子どもから高齢者まで多くの区民への生涯学習機会の提供につなげていく。

学習・スポーツ面では、区民が学んだ成果を各々の地域や放課後子ども教室などの場で還元して様々な体験機会が広がるように、その活動を継続的に支援する。また、文化面では、“ネットワーク”と“アウトリーチ”をキーワードに、新たな文化を創造しようとする区民やアーティスト等を緩やかにつなぎ、多様な文化活動の創出を図る。

３　公益財団法人として、法令等に基づく適正な法人運営を行う。

公 社 概 要

公益財団法人足立区生涯学習振興公社

設　　立	平成５年２月１日（平成１２年４月１日名称変更）
公 益 認 定	平成２１年１０月１日公益財団法人
基 本 財 産	１５億円
代　表　者	理事長　亀村　精一
職　員　数	４２名（定数） 常勤２９名（派遣７名、固有２２名） 非常勤 13 名
住　　所	〒120−0034　東京都足立区千住五丁目１３番5号 学びピア21

ホームページ
ア ド レ ス　　http://www.kousya.jp/tokimeki/

組 織 図

（決　議　機　関）

評　議　員

（監　査　機　関）

監　事

（執　行　機　関）

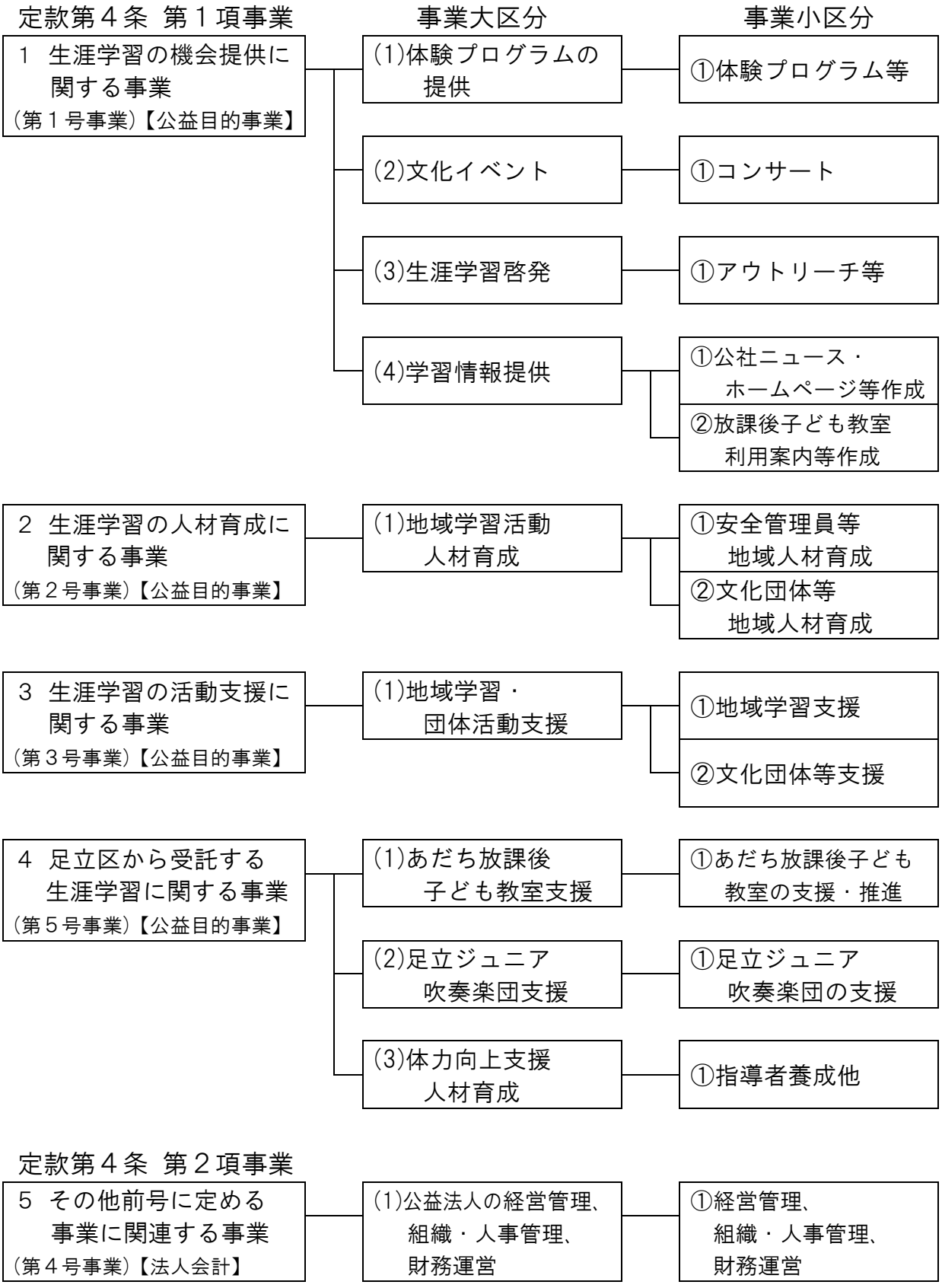
理　事　会 ― 理　事　長 ― 副　理　事　長
（代表理事）　（業務執行理事）

（事 務 局）

事務局長

- 総　務　部 ― 企画総務課、企画調整担当課長（２）
経理課
- 学習事業部 ― 放課後子ども教室推進課、
放課後子ども教室地域担当課長（7）
学習・スポーツ事業課、文化活動支援課

平成２９年度 定款事業別体系図



目　次

１　あだち放課後子ども教室事業

（１）　あだち放課後子ども教室の支援≪区受託≫ …… …… 1

（２）　『放課後＋One』(放課後子ども教室における体験プログラム) …… 3

ア 地域人材活用・体験プログラム
イ　団体連携・体験プログラム
ウ　公社企画・体験プログラム

（３）　安全管理講習会（応急手当実技）≪区受託≫ …… 6

（４）　新任安全管理講習会（応急手当実技）≪区受託≫ …… 6

（５）　安全管理員研修会（3コース） …… …… …… 7

（６）　運営委員会≪区受託≫ …… …… …… …… 8

（７）　ブロック会議≪区受託≫ …… …… …… …… 9

（８）　「あだち放課後子ども教室利用案内」の配付 …… …… 10

（９）　「あだち放課後子ども教室スタッフ募集案内」の配布 …… 11

２　文化事業

（１）　あだちアートリンクカフェ …… …… …… 12

（２）　あだちアートリンクカフェ・公開講座 …… …… …… 13

（３）　実践！音楽アウトリーチ講座 …… …… …… 14

（４）　文化団体等支援 …… …… …… 14

（５）　イベントコーディネート事業 …… …… …… 15

（６）　楽団及び楽団友の会の運営支援、演奏活動の支援（通年）≪区受託≫ 16

（７）　足立ジュニア吹奏楽団派遣演奏支援（楽器運搬） …… …… 18

（８）　コンサートin ミュージアム …… …… …… 18

（９）　あだちアートリンクカフェ・フェスティバル …… …… 19

（１０）小学校アウトリーチコンサート …… …… …… 20

３ 生涯学習・スポーツ事業

（１） あだちこどもサポーター養成講座 …… 22
（２） あだちこどもサポータースキルアップ講座 …… 23
（３） あだちこどもサポーターフォロー講座 …… 24
（４） あだちこどもサポーター活動支援（随時） …… 24
（５） あだちこどもサポーターネットワーク支援 …… 25
（６） スポーツ指導者スキルアップ講習会≪区受託≫ …… 26
～運動機能向上のためのトレーニング（高齢者）～
（７） スポーツ指導者スキルアップ講習会≪区受託≫ …… 27
～運動あそびと体力向上のためのトレーニング（子ども）～
（８） 健康づくり・スポーツ活動支援講座 …… 28
（９） 地域活動支援講座 …… 29
（１０） 地域学習コーディネート事業 …… 30
（１１） 読み語りキャラバン隊によるおはなし会 …… 30

４ 広報事業

（１） 公社ニュース「ときめき」での自主事業等情報発信 …… 32
（２） 公社ホームページによる情報提供事業 …… 32

５ その他

（１） 公益目的事業に対する人件費 …… 33
（２） その他前号に定める事業に関連する事業 …… 33

≪目標達成度≫
◎･･･90%以上
○･･･70%～90%未満
△･･･70%未満

1　あだち放課後子ども教室支援事業

あだち放課後子ども教室支援　経費	予算現額	226, 171, 000 円
	執行額	210, 418, 060 円

	予算現額		223, 072, 000 円		
	執行額		207, 867, 547 円		
(1)あだち放課後子ども教室の支援≪区受託≫	予定回数/目標人数		実施結果		達成
定款第 4 条第 1 項第 5 号 (1)あだち放課後子ども教室支援 ①あだち放課後子ども教室の支援･推進	通年	―	―	-	-

概要	あだち放課後子ども教室*は、児童が放課後の小学校施設で安全安心に過ごし、自主的に遊びや学習、読書などの体験・交流活動のできる場を提供する区の事業である。各校の地域住民による実行委員会*が安全管理員(以下、スタッフ)を選任して運営し、公社が区からの委託を受けて運営支援を行っている。※P1～11 の文中にある「安全管理員」は、すべて「スタッフ」と表記する。
目的	① 各放課後子ども教室の年間事業計画どおりに実施する。 ② 全学年実施校を拡大する。 ③ 体験・交流活動の充実を図る。
実施結果	① 年間計画の実施を可能とするため、現場への巡回や会議等への出席、事故対応や事務の補助など、地域住民が組織する実行委員会による事業運営を支援した。 ② 全学年実施校を増やすため、安全管理体制の整備や活動場所の調整など各校の課題について実行委員会・スタッフ及び学校と協議し、対象学年の拡大に取り組んだ。

実施状況

年度 (校数)	全学年 実施 校数	1 校平均 年間実施 日数	延参加 児童数	1 校 1 日 平均参加 児童数	活動 スタッフ 人数	1 校平均 巡回回数
27(69)	57 校	171 日	702,819 人	59.4 人	1,365 人	47 回
28(69)	60 校	171 日	718,989 人	60.9 人	1,295 人	48 回
29(69)	63 校	166 日	700,897 人	61 人	1,249 人	49 回

・児童の怪我・物損に伴う保護者への連絡:1,433 件(1 校平均 21.1 件)
※うち、1 回以上の通院:215 件、入院:0 件、物損:8 件
・スタッフ確保への支援
スタッフ募集パンフレットの作成(P11 参照)　11 月　8,000 部

	見守りスタッフ活動説明会の開催　3 月 15 日（木）活動希望者 14 名（申込者 16 名） ・アンケート調査の実施　参加児童対象　10 月 保護者対象　11 月末～12 月上旬 ③ 「足立区放課後子ども総合プラン」*に基づき、学童保育室が校内及び隣接する学校における三者（放課後子ども教室・学童保育室・学校）の情報連絡会を順次行い、互いの情報を共有した。また、各校の実行委員会が実施する体験プログラムの支援や公社プログラムの導入で、体験活動を拡充した。（P3～5 参照） ・放課後子ども教室・学童保育室・学校による情報連絡会：32 校中 28 校実施 ・『放課後＋One』（放課後子ども教室における体験プログラム） 年 1 回以上、体験プログラム実施校：56 校 ※うち概ね月 1 回以上実施校：40 校、その他、日常活動で自由にできるプログラムを 6 種目 43 校に公社から提案して導入。
≪事業評価と課題への対応≫ 各校への支援によって、円滑な運営、対象学年の拡大や体験プログラムの拡充を進めており、引き続き取り組んでいく。また、約半数の実行委員会がスタッフ確保に苦慮しているため、スタッフ募集パンフレットの作成（P11 参照）や見守りスタッフ活動説明会の実施などによるスタッフ補充の支援を強化した。なお、参加児童および保護者対象アンケートを実施し、利用者満足度などの事業評価をおこなった。今後もアンケートの実施を定期的に行い、児童及び保護者の意識を把握し、事業の改善に活かしていく。	

＊あだち放課後子ども教室：区主催の学校施設を活用した放課後活動の場の提供事業。自由遊び、自主学習を基本とした体験交流活動の場。

＊実行委員会：地域住民により構成された放課後子ども教室の運営主体。児童の安全安心のため安全管理員を選任。

＊「足立区放課後子ども総合プラン」：文部科学省と厚生労働省が平成 26 年度に発表した「放課後子ども総合プラン」を受け、区が平成 27 年度に策定。放課後子ども教室および学童保育事業の計画的な整備等を進めることとしており、放課後子ども教室については、全学年実施と開催日数の拡大、校内および隣接する学童保育室との連携、体験プログラムの充実などを目指す計画。

予算現額	1，510，000 円
執行額	1，210，282 円

（2）『放課後＋One（プラス ワン）』 （放課後子ども教室における体験プログラム）

定款第 4 条第 1 項第 1 号 （1）体験プログラムの提供 ①体験プログラム等

（ア） 地域人材活用・体験プログラム		予定回数/目標人数		実施結果		達成
		200 回	1,880 人	259 回	3,734 人	◎
概要	地域の人材を活用した、放課後子ども教室実行委員会の自主体験プログラム					
目的	① おりがみは想像力の醸成と集中力の向上、読書支援では本への興味関心を高める。 ② 子どもの関わる第三の大人を増やすことにより、子どもの体験・交流活動を促進する。 ③ 地域人材を子どもの活動支援者として活躍してもらう機会を創る。					
	放課後キッズおりがみ教室（実施 22 校各8回）	176 回	1,760 人	238 回	3,524 人	－
	放課後キッズ読書支援（実施 2 校各 12 回）	24 回	120 人	21 回	210 人	－
実施結果	① おりがみ教室では、季節感のある作品やじっくり折りこむ作品に取り組む創作体験の機会を提供した。読書支援では、読みたい本を一緒に探す・本を紹介する等、本に親しむ体験をサポートした。 ② おりがみをコミュニケーションのツールとして一緒に遊ぶ、本を介して交流するなど、スタッフとは別の大人として子どもたちに関わり体験活動を支援した。 ③ 公社が主催する「あだちこどもサポーター養成講座」で学んだ成果を、放課後子ども教室体験プログラムで活かしていただくため各校実行委員会へつなぎ、今年度計 25 校で約 100 人のサポーターが活躍する機会ができた。					

≪事業評価と課題への対応≫

サポーター養成講座修了者が、新たに活動を開始し、放課後子ども教室の体験プログラムを支える人材が拡大できた。『放課後+One』に関わるサポーター自身にとっても有意義な活動となり、新たな学習への意欲にもつなげられる機会が提供できている。今後も、サポーター活動を継続的に支援し、子どもたちの体験活動の機会を拡充していく。

（イ）団体連携・体験プログラム		予定回数/目標人数		実施結果		達成
		60 回	2,020 人	87 回	3,247 人	◎
概要	公社が企業やNPO法人等の団体と連携し、放課後子ども教室で実施するプログラム					
目的	① 児童の体験・交流活動を充実させるため、放課後子ども教室に適したプログラムを有する様々な団体と連携し、各校の活動状況に適したプログラムを実施する。 ② 読書推進や体力向上などの課題解決につなげるため、同じ目的のプログラムを実施する団体と連携し、体験・交流活動の効果を高める。					
実施結果	工作「夢広場」 /19 校	20 回	1,000 人	20 回	1,131 人	－
	NPO 法人あちこち会					
	フラッグ鬼ごっこ* /5 校	8 回	240 人	18 回	644 人	－
	スポーツ推進委員会					
	工作「ハンズヒントクラブ」 /2 校	1 回	50 人	2 回	76 人	－
	(株) ハンズ					
	楽器体験＆ミニコンサート /10 校	8 回	240 人	10 回	354 人	－
	AJBT					
	ビブリオバトル*/6 校	6 回	120 人	8 回	279 人	－
	Book Link					
	将棋 /2 校	16 回	320 人	19 回	452 人	－
	日本将棋連盟					
	どうぶつしょうぎ* /3 校	－	－	3 回	124 人	－
	どうぶつしょうぎを育てる会「いっぽ」					
	おもちゃ講座 /2 校	－	－	2 回	94 人	－
	イワヤ㈱					
	おはじきサッカー*/1 校	－	－	3 回	40 人	－
	(株)グランディオサービス					
	おりがみ体験会 / 1 校	－	－	2 回	53 人	－
	おりがみサポーター有志					
	① 「ゆめ広場」と「ハンズヒントクラブ」では、万華鏡等、子どもたちが実際に遊ぶことのできる作品を作った。「楽器体験＆ミニコンサート」は、生演奏を聴き、楽器に触れる体験を行った。「将棋」は、日本将棋連盟のプロ棋士から指導を受けられる機会となった。「どうぶつしょうぎ」は、子どもたちが異学年を含めた友だちとのコミュニケーションを図ることができた。「おもちゃ講座」では、おもちゃの仕組みを知り、安全に遊ぶための注意、遊具を大切にすることを学んだ。 ② 「ビブリオバトル」では、大学生の団体が子どもたちに本の魅力を伝えた。「フラッグ鬼ごっこ」では、スポーツ推進委員が、体力向上につながる運動遊びを指導した。					

≪事業評価と課題への対応≫
各団体の協力により、子どもたちに様々な体験の機会を提供した。引き続き、各校の実行委員会と団体をコーディネートし、幅広い体験プログラムを実施していく。

＊フラッグ鬼ごっこ:スポーツ推進委員会が普及している鬼ごっこ型の宝取りゲーム
＊ビブリオバトル:数人の発表者が本を紹介し、子どもが一番読みたい本に投票する、読書啓発につながるゲーム
＊どうぶつしょうぎ:3×4 マスの盤でライオンや象が描かれた 8 個の駒で対戦する、将棋のルールを簡略化した将棋ゲーム
＊おはじきサッカー:「おはじき」の要領で、コマを指ではじきながらゴールを狙うテーブルサッカーゲーム

（ウ）公社企画・体験プログラム	予定回数/目標人数		実施結果		達成
	7 種目	70 校	6 種目	61 校	○
概要	スタッフが実施できるプログラムを公社が企画し、各校へ導入するプログラム				
目的	① 児童の体験・交流活動を充実させるため、放課後子ども教室の条件に適したプログラムを用意し、各校の活動状況に合ったものを導入してプログラム実施校を増やす。 ② 読書推進や体力向上などの課題解決につなげるため、放課後子ども教室の特性を活かしたプログラムを開発して各校に導入し、体験・交流活動の効果を高める。				
実施結果	(1)読書通帳*/25 校、(2) 大型図書*/9 校、 (3)スポーツスタッキング*/3 校、 (4)天下統一*/1 校、(5) 投げる遊び*/7 校 (6)ラッキーパズル*/16 校、				
	「学習・読書」プログラムとして、「読書通帳」、「大型図書」を継続して実施し、「運動」プログラムとして、「スポーツスタッキング」、「天下統一」に加えて、下半期は「投げる遊び」を実施した。 「文化」プログラムからは「ラッキーパズル」をチャレンジシートとともに配付し難易度をあげながら挑戦する形式で提案した。合計 6 種目を 61 校に導入した。				

≪事業評価と課題への対応≫
特に、これまで活動スペースや参加人数等の課題があり、体験活動を広げられなかった学校に向けて、導入しやすいプログラムを公社から実行委員会に提案した。
「読書通帳」、「スポーツスタッキング」など、子どもたちの興味関心を高めるプログラムで、読書のきっかけや体力・集中力の向上などにつなげた。
下半期には、投力向上の取り組みとして、区及び学校と連携し、多様な「投げる遊び」を実施した。
引き続き、各放課後子ども教室の条件に適し、子どもたちが興味を持ち体験活動が広がるプログラムを提案していく。

＊読書通帳:読んだ本のタイトルを記入する通帳型のカード
＊大型図書:新聞紙大の絵本や、パネルシアターなど、子どもの目を惹く図書資料を貸し出すもの
＊スポーツスタッキング:数個のカップを積み上げて、元に戻すスピードを競う競技
＊天下統一:ボールを投げて人に当てたり、そのボールを捕ったり逃げたりする運動あそび
＊投げる遊び:たまねぎ型のボール投げや的当てなど、投げる力を養う運動あそび全般
＊ラッキーパズル:数種類の木片を組み合わせて様々な形を作る木製のパズルゲーム

(3)安全管理講習会(応急手当実技)≪区受託≫ 定款第 4 条第 1 項第 5 号 (1)あだち放課後子ども教室支援 ①あだち放課後子ども教室の支援・推進	予定回数/目標人数		実施結果		達成
	69 回	1,040 人	69 回	933 人	○
概要	スタッフが事故やケガの対応に必要な知識と技能を学ぶ講習会(毎年全校で実施)				
目的	見守り活動に必要な緊急時の対処法や応急手当の知識と技術を習得させる。				
実施結果	4 月から 7 月にかけて全 69 校で実施 講師:NPO 法人スポーツセーフティジャパン派遣講師				
	専門講師を招き、緊急対応(心肺蘇生 AED の使い方)、応急手当の方法(アイシングなど)、熱中症の予防と対策などについて、実技を交えて実施した。				
≪事業評価と課題への対応≫ アンケートでは、年に一度、知識の再認識ができて、良い復習の機会となっているとの声が多い。また、日頃の仲間と受講することで、緊急対応についての共通認識ができるので安心との声もある。講習を繰り返すことで、個々の対応力は向上しており、活動時の応急手当に役立っている。今後も年度初めに全校で講習会を開催する。					

(4)新任安全管理講習会(応急手当実技)≪区受託≫ 定款第 4 条第 1 項第 5 号 (1)あだち放課後子ども教室支援 ①あだち放課後子ども教室の支援・推進	予定回数/目標人数		実施結果		達成
	4 回	―	4 回	65 人	-
概要	新規に登録したスタッフが、事故やケガの対応に必要な知識と技能を学ぶ講習会				
目的	新任のスタッフに、安全管理員としての心構えとして、見守り活動に必要な緊急時の対処法や応急手当の知識と技術を習得させる。				
実施結果	10 月 5 日(木)、11 月 28 日(火)、1 月 19 日(金)、3 月 2 日(金) 生涯学習センター　午前 講師:NPO 法人スポーツセーフティジャパン派遣講師				
	専門講師を招き、新任スタッフを対象に緊急対応(心肺蘇生 AED の使い方)、応急手当の方法(アイシングなど)、熱中症の予防と対策などについて、実技を交えて実施した。				
≪事業評価と課題への対応≫ 新任スタッフに適した講習内容となるように、受講者アンケートを参考に見直しを図りながら毎年実施していく。					

		予算現額		250，000 円		
		執行額		181，055 円		
(5)安全管理員研修会(3コース) 定款第 4 条第 1 項第 2 号 (1)地域学習活動人材育成 ①安全管理員等地域人材育成		予定回数/目標人数		実施結果		達成
		6 回	300 人	6 回	330 人	◎
概要	放課後子ども教室のスタッフが見守り業務に役立つ専門的知識と技術を学ぶ研修会					
目的	① 児童への接し方を学び、スタッフとしての適応力を高める。 ② 室内遊びの手法を学び、体験活動のきっかけづくりとする。					
実施結果	Aコース「他校スタッフとの情報交換」	3 回	150 人	2 回	104 人	―
	6 月 9 日(金)生涯学習センター、7月7日(金)ギャラクシティ　全て午前 講師:藤後悦子氏(東京未来大学教授)					
	Bコース「気になる子どもへの理解」	2 回	100 人	2 回	153 人	―
	10 月6日(金)ギャラクシティ、10 月 26 日(木)生涯学習センター　全て午前 講師:国沢真弓氏(一般社団法人「発達障がいファミリーサポートMarble」代表理事)					
	Cコース「遊びの見本市」	1 回	50 人	2 回	73 人	―
	11月16日(木)午前　生涯学習センター、12 月 5 日(火)午前　ギャラクシティ 講師:藤田麻衣子氏(いっぽどうぶつしょうぎを育てる会代表)他					
	① 他校スタッフとの情報交換を行った研修では日常運営での各校での工夫や取り組みが参考になったとの感想が多くあった。子どもへの接し方をテーマとする研修では「対応に苦慮する子ども」をどう受け止めたら良いのかというスタッフの声を受け実施した。受講者アンケートでは「困った子ではなく、困っている子として対応することが大切」等、発達障害を理解しようとする意見が多かった。 ② スタッフ及び公社職員から、各校で人気のある遊具(やわらかボール・ボードゲーム等)や導入しやすい室内遊び(どうぶつしょうぎ・ラッキーパズル等)などを紹介し、実行委員会が主体となった体験プログラムの拡充につながるきっかけとなった。					

≪事業評価と課題への対応≫

受講者アンケートから、他校との意見交換や、専門講師の講義により、見守りを行ううえでの工夫や、子どもとの関わり方について理解を深めることが出来たことがうかがえる。「遊びの見本市」では、研修実施後、複数の実行委員会から導入したいとの希望があり、体験機会の拡充につながった。今後も、現場のニーズを聞き、スタッフのスキルアップや運営に役立つテーマの研修を実施する。

	予算現額		761，000 円		
	執行額		720，696 円		
(6)運営委員会 ≪区受託≫ 定款第 4 条第 1 項第 5 号 (1)あだち放課後子ども教室支援 ①あだち放課後子ども教室の支援･推進	予定回数/目標人数		実施結果		達成
	1回	―	1回	109 人	―

概要	全放課後子ども教室実行委員長および関係団体の代表により組織された運営委員が共通事項を検討する会議。
目的	実行委員長等が、各事項の検討を通して、事業趣旨や必要性に対する理解を深めるとともに新しい課題(放課後子ども総合プランに即した体験プログラムの導入等)への共通認識を持ち、日常運営での取り組みに反映する。
実施結果	テーマ:子どもの体力と放課後子ども教室 1 月 26 日(金)生涯学習センター　出席者:実行委員長・関係団体代表 講演:「子どもの体力と放課後子ども教室」 (講師　足立区　教育指導課　石坂統括指導主事) 事例紹介:「身体を使った遊びの事例」(説明　公社　職員) 講評:スポーツ推進委員会　会長 関連報告: ① 教育委員会:児童・保護者アンケート実施報告　足立区　教育政策課長 ② 公社報告:見守りスタッフ募集パンフレット　公社　学習事業部長 「遊びを通じて体力向上につなげる取り組みを行うことは素晴らしいと思う」「放課後の時間が子どもたちの体力づくりの面でも重要であることが良く理解できた」等、9 割を超える出席者から参考になったとの声があった。

≪事業評価と課題への対応≫

子どもの体力の現状、体力向上に向けた学校の取り組み及び放課後子ども教室の有用性について、実行委員長他、関係者に情報提供を行い、各放課後子ども教室での身体を使った遊びのさらなる充実を図り、体力向上につなげる意識啓発につながった。今後も教育委員会と協議し、事業運営に即した内容で実施していく。

<table>
<tr><td rowspan="2">(7)ブロック会議　　≪区受託≫
定款第 4 条第 1 項第 5 号
(1)あだち放課後子ども教室支援
①あだち放課後子ども教室の支援･推進</td><td colspan="2">予定回数/目標人数</td><td colspan="2">実施結果</td><td>達成</td></tr>
<tr><td>13 回</td><td>－</td><td>13 回</td><td>204 人</td><td>－</td></tr>
<tr><td>概要</td><td colspan="5">運営委員会の円滑な実施を補完するために、小学校 13 ブロックごとに、各放課後子ども教室の実行委員長と校長が出席し、情報交換や課題の協議・調整を行う会議。</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="5">① 実行委員長が、他校の実施状況や取組みを知ることにより、その情報を実行委員、スタッフに周知し、より充実した日常運営につなぐ一助とする。
② 教育委員会および公社からの事業の方向性、現状課題に関連する情報発信を受けて、実行委員長および学校が、共通理解したうえで、各校の協力体制を深める。
③ 運営の主体となる実行委員会及び活動の場である学校長からの具体的な意見を受けて、その後の運営委員会につなげるなど、教育委員会、公社が事業に関する情報発信、支援内容について見直しを図る機会とする。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">実施結果</td><td colspan="5">各ブロックにて、実行委員会、学校が情報交換、運営委員会のテーマ「子どもの体力と放課後子ども教室」に即した意見交換を行った。</td></tr>
<tr><td colspan="5">11 月 6 日(月)～11 月 29 日(水) 順次実施</td></tr>
<tr><td colspan="5">① 各校の放課後子ども教室の実施状況について報告し、各校の課題について助言及び参考意見が提示され、課題解決のきっかけとなった。
② 足立区の子どもたちの懸案事項のひとつである体力低下という事象への対応について、放課後子ども教室の場でどのような機会をもうけることができるか、また学校での取り組みがどのようなものか共有することができた。
③ 「平成 28 年度の体力調査結果」をもとに意見交換を行った。提示された疑問、提案等は運営委員会の講師へ伝え、講演内容の参考としていただいた。</td></tr>
<tr><td colspan="6">≪事業評価と課題への対応≫
運営委員会の分科会として、テーマの関連性も考慮し、教育委員会と協議し、事業運営に即した内容で実施していく。また、各実行委員会、学校よりいただいた意見を参考に実施形態(出席者、実施時期等)の見直しを区と協議していく。</td></tr>
</table>

	予算現額		578, 000 円		
	執行額		438, 480 円		
(8)「あだち放課後子ども教室利用案内」の配付 定款第 4 条第 1 項第 1 号 (4)学習情報提供 ②放課後子ども教室利用案内等作成	予定回数/目標配付数		実施結果		達成
	随時	7,500 部	随時	7,500 部	◎

概要	放課後子ども教室事業趣旨、参加時の約束事等を記載した冊子を作成・対象保護者及び関係者への配付 。
目的	① 事業趣旨への保護者の理解を深め、参加時のルール等への協力を図り、円滑な教室運営につなげる。 ② 実行委員・スタッフ、学校関係者等に運営に関する共通理解を図り、安定的な教室運営につなげる。 ③ 放課後子ども教室登録児童数を増やす。
実施結果	7,500 部印刷し、新 1 年生や学校関係者等に配付した。
	① 新入学児童が登録申込みをする際や保護者説明会などで配付し、教室の利用方法や参加時の約束事を周知した。 ② 新任校長始め教職員への事業説明及び新規スタッフの登録説明時に活用した。 ③ 放課後子ども教室の登録率が、28 年度 85.6%から 29 年度 88%となった。

≪事業評価と課題への対応≫

事業内容を充分に浸透させるため、入学式及び保護者会等で「利用案内」を資料として説明する機会を設けている。また、保護者への効果を測るため、下半期実施の保護者アンケートに質問項目(「利用案内を読んだか・内容がわかりやすかったか」)を設け、回答した約 8 割の保護者から「利用案内を読んだ。内容はわかりやすかった」との回答を得た。今後も、保護者、児童、学校等の事業趣旨、内容への理解を深めるべく内容を随時見直していき、さまざまな機会に事業説明のツールとして役立てていく。

<table>
<tr><td rowspan="2">(9)「あだち放課後子ども教室スタッフ募集案内」の配布
定款第 4 条第 1 項第 1 号
(4)学習情報提供
②放課後子ども教室利用案内等作成</td><td>予定回数/目標配付数</td><td colspan="2">実施結果</td><td>達成</td></tr>
<tr><td>随時</td><td>8,000 部</td><td>随時</td><td>6,000 部</td><td>○</td></tr>
<tr><td>概要</td><td colspan="4">放課後子ども教室スタッフを募集・勧誘するため、活動内容や現スタッフの体験談等を記載したパンフレットを作成、区民及び関係者へ配布。</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="4">放課後子ども教室スタッフの活動内容や魅力を発信し、スタッフの安定確保を図る。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">実施結果</td><td colspan="4">11 月に 8,000 部作成し 6,000 部配布した。</td></tr>
<tr><td colspan="4">スタッフ確保が必要な実行委員会を中心に配布した。各実行委員会により、スタッフ希望者が見込まれる対象（開かれた学校づくり協議会、PTA、近隣の中学校の保護者等）への説明に活用していただくと同時にさらに広範囲にスタッフ募集を周知するために、近隣の地域学習センター、郵便局、総合ボランティアセンター等に配架した。</td></tr>
<tr><td colspan="5">≪事業評価と課題への対応≫
放課後子ども教室の事業概要およびスタッフの募集要件をわかりやすくに記載するとともに、活動中のスタッフ自身のやりがい、充実感をインタビュー形式でまとめた。今後もスタッフ確保につながる広報を強化していく。</td></tr>
</table>

≪目標達成度≫
◎・・・90%以上
○・・・70%～90%未満
△・・・70%未満

2　文化事業

文化事業　経費	予算現額	9，091，000 円
	執行額	8，234，063 円

		予算現額		535，000 円		
		執行額		457，272 円		
(1)あだちアートリンクカフェ 定款第 4 条第 1 項第 2 号 (1)地域学習活動人材育成 ②文化団体等地域人材育成		予定回数/目標人数		実施結果		達成
		6 回	120 人	6 回	122 人	◎
概要	アートに関わる方々を対象とした、新たな出会いと交流を図る情報交換会					
目的	①　情報交換と交流により、各自の地域での活動の幅を広げ、地域の持つ力の向上を図る。 ②　出会いをきっかけとして、参加者による自主的な企画を創出する。					
実施結果	第 59 回「出会いは世界を広げる －エンブレムホステル西新井の挑戦－」	1 回	20 人	1 回	21 人	－
	5 月 26 日(金)夜間エンブレムホステル西新井 ゲストスピーカー：入江洋介氏（エンブレムジャパン株式会社　代表取締役社長）					
	第 60 回「新しいアートの拠点 BUoY 北千住アートセンター」	1 回	20 人	1 回	29 人	－
	8 月 25 日（金）夜間 BUoY 北千住アートセンター ゲストスピーカー：岸本佳子氏（BUoY 北千住アートセンター　芸術監督）					
	第 61 回「トリフォニーホール・ジュニア・ オーケストラの活動について」	1 回	20 人	1 回	20 人	－
	9 月 22 日（金）夜間　東京芸術センター ゲストスピーカー：上野喜浩氏（公益財団法人墨田区文化振興財団　音楽事業係長）					
	第 63 回「仲良くなろう室内楽～とある弦楽 四重奏の苦労の主題による～」	1 回	20 人	1 回	13 人	－
	11 月 24 日（金）夜間　東京芸術センター ゲストスピーカー：河井　拓氏（公益財団法人日本室内楽振興財団　プロデューサー）					
	第 64 回「オーケストラを撮る、見る、魅せる？」	1 回	20 人	1 回	21 人	－
	1 月 26 日（金）夜間　東京芸術センター ゲストスピーカー：齋藤琴子氏（NHK制作局　音楽・伝統芸能番組部ディレクター）					

実施結果	第 65 回「2,000 本のワインを飲んだ人々と繋がるアート“コルクアート”」	1 回	20 人	1 回	18 人	－
	3 月 23 日(金)夜間　東京芸術センター ゲストスピーカー：久保友則氏（コルクアーティスト、シニアソムリエ）					
	① 独創的な活動で全国的に注目を集めている人材をゲストスピーカーに迎え、活動内容の講演と先進的施設の見学を実施し、区内外のアート関連情報の周知を図った。 ② 文化芸術に関心を持つ参加者同士が出合い、交流する場を提供したことにより、ゲスト及び参加者の活動の幅を広げ、新たな文化芸術の創出の可能性を広げた。					
≪事業評価と課題への対応≫ タイムリーな人材をゲストスピーカーとして選定したことは、文化芸術の関心を持つ区民に、公社の先見性を示し、公社が持つ文化芸術分野での知見に対する信頼性を向上させた。 毎回新規の参加者があり、新しい出会いは毎回創出されている。 ゲストスピーカー選定及び新規参加者拡大のため、 全課員には常に情報収集を怠らず、自ら積極的に出会いを求めていく姿勢が必須である。						

（2）あだちアートリンクカフェ・公開講座 定款第 4 条第 1 項第 2 号 （1）地域学習活動人材育成 ②文化団体等地域人材育成	予定回数/目標人数		実施結果		達成
	1 回	80 人	1 回	25 人	△

概要	「あだちアートリンクカフェ」の一般区民向けの公開講座					
目的	① 文化芸術に関心の高い区民を対象に講座を提供し、文化面での区民還元を図る。 ② 情報交換と交流により、各自の地域での活動の幅を広げ、地域の持つ力の向上を図る。					
実施結果	第 62 回「自分の「からだ」と対話する ～「からだの動き」はどこからやってくる？～」	1 回	80 人	1 回	25 人	－
	10 月 27 日（金）夜間　生涯学習センター講堂 ゲストスピーカー：永井美里氏（ダンサー、ダンス講師）、パフォーマー：上本竜平氏（AAPA 主宰）					
	① 区内での先進的な文化芸術活動を文化芸術に関心を持つ区民に示し、ワークショップを通して、新しい文化芸術体験を区民に還元した。 ② 文化芸術活動を行う多くの個人、団体の活動紹介を参加者に向けて行うことにより、文化芸術分野の情報を発信し、地域の力の向上を図った。					
≪事業評価と課題への対応≫ ゲストスピーカー選定及び新規参加者拡大のため、全課員には、常に情報収集を怠らず、自ら積極的に出会いを求めていく姿勢が必須であり、区民へのわかりやすい周知方法に一層工夫していく。						

(3)実践！音楽アウトリーチ講座 定款第 4 条第 1 項第 2 号 (1)地域学習活動人材育成 ②文化団体等地域人材育成		予定回数/目標人数		実施結果		達成
		1 回	15 人	1 回	18 人	◎
概要	地域で活動する演奏家を対象に、アウトリーチ活動に関する知識と技術を学ぶ講座(2 日制)					
目的	① アウトリーチの知識・技術の習得により、意欲ある地域の演奏家を育成する。 ② 新たな演奏家を発掘し、地域での活動による区民還元の可能性を拡大させる。					
実施結果	4 月 15 日(土)、16 日(日)午前・午後 竹の塚地域学習センター	1 回	15 人	1回	18 人	-
	講師:児玉 真氏(一般財団法人 地域創造プロデューサー、長崎市藝術アドヴァイザー、桐朋学園芸術短期大学非常勤講師)、阿部初美氏(演出家)、演奏:奥田なな子氏(チェロ)、白石光隆氏(ピアノ)					
	① アウトリーチ活動の第一人者である講師陣による講義、実演、グループワークを実施した。 ② 区内演奏家及び企画者に加え全国から受講者が訪れた。(香川県、岩手県、千葉県、埼玉県他)					
≪事業評価と課題への対応≫ アウトリーチに関する講座は全国的にも数が少なく、充実した内容である当講座は全国から注目を集めている。当事業で習得した考え方や知識、技術が参加者自身の活動で効果的に実践されている(アートリンクカフェ・フェスティバル出演、一般財団法人 地域創造音楽活性化事業登録アーティスト合格等)。今後、「イベントコーディネート」や自主事業で人材を活用するとともに、文化事業を実施する区内指定管理者への人材情報提供を行い、事業修了者の活動機会の拡大による区民への還元を図る。 修了者による自主的な活動の情報を把握する仕組み作りが必要である。						

		予算現額		― 円		
		執行額		― 円		
(4)文化団体等支援 定款第 4 条第 1 項第 3 号 (1)地域学習・団体活動支援 ②文化団体等支援		予定回数/目標人数		実施結果		達成
		11 回	-	11 回	3,311 人	-
概要	自主的な文化活動を行う区民、団体に対する支援					
目的	活動に対する助言や場の提供の支援により、区民文化活動の充実に寄与する。					
実施結果	足立区音楽祭＜街かどライブ＞	4 回	-	4 回	450 人	-
	第 13 回 9 月 2 日(土)～9 月 24 日(日) アリオ西新井、都市農業公園他					
	足立区音楽祭	1 回	-	1 回	620 人	-
	第 13 回 10 月 1 日(日)午後 西新井文化ホール					
	ブリランテ 秋のコンサート	1 回	-	1 回	424 人	-
	9 月 17 日(日)午後 西新井文化ホール					
	ブリランテ 春のコンサート	1 回	-	1 回	422 人	-

	3 月 28 日(水)夜間　西新井文化ホール					
	足立吹奏楽団　第 27 回ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞｺﾝｻｰﾄ	1 回	－	1 回	524 人	－
	5 月 28 日(日)午後　西新井文化ホール					
	足立吹奏楽団　第 28 回定期演奏会	1 回	－	1 回	543 人	－
	2 月 18 日(日)午後　西新井文化ホール					
	歓喜の演　Vol.16 (狂言)	1 回	－	1 回	493 人	－
	11 月 4 日(土)午後　西新井文化ホール					
	歓喜の演　Vol.16(合唱)	1 回	－	1 回	800 人	－
	12 月 30 日(土)午後　西新井文化ホール					
	各団体からの申請を受け、公社との共催事業としている。活動に関する助言や支援(パブリシティの確認、ギャラクシティ施設以外の活動場所の確保、本番当日の運営支援等)を図った。					
≪事業評価と課題への対応≫ 区民の自主的な文化活動を充実させ、文化面での区民還元を図った。						

	予算減額		― 円		
	執行額		― 円		
(5)イベントコーディネート事業 定款第 4 条第 1 項第 3 号 (1)地域学習・団体活動支援 ②文化団体等支援	予定回数/目標人数		実施結果		達成
	随時	－	8 件	－	－

概要	地域の団体・機関、小学校等からのイベントの企画・運営や出演者に関する相談窓口
目的	地域での主体的な文化芸術活動の活性化を図る。
実施結果	敬老のつどいイベント （長門住区センター）
	ミュージカル公演会場の提案(イベント企画会社)
	足立光の祭典(足立観光交流協会)
	新年会(綾瀬ないろ園)
	足立吹奏楽団　第 40 回定期演奏会(足立吹奏楽団)
	防災フェスタ(東京都公園協会)
	区民協働のアンサンブル大会の開催(イベント企画会社)
	パイプオルガンコンサート＆ワークショップ(原さやか)
	イベントの出演者のコーディネートや、企画についての相談に対する助言等を行った。29 年度は、5 件の新規団体や個人からの問合せがあった。一方、毎年定着した団体からの相談も受けている。
≪事業評価と課題への対応≫ イベント終了後には、依頼先の団体から、高い評価を得た。毎年依頼のある団体との信頼関係を大切にするとともに、ニーズに合ったコーディネートや助言ができるよう、引き続き支援していく。	

		予算現額		4，730，000 円		
		執行額		4，693，589 円		
(6)楽団及び楽団友の会の運営支援、演奏活動の支援【通年】≪区受託≫ 定款第 4 条第 1 項第 5 号 (2)足立ｼﾞｭﾆｱ吹奏楽団支援 ①足立ｼﾞｭﾆｱ吹奏楽団の支援		予定回数/目標人数		実施結果		達成
		―	―	―	―	―
概要	「足立ジュニア吹奏楽団」の育成・活動支援事業					
目的	① 生涯にわたり音楽を愛好する児童の育成を図り、区の音楽文化を支える人材の輩出に貢献する。 ② 楽団活動を通して、足立区の音楽文化の向上、発展に寄与し、魅力ある地域づくりに貢献する。					
実施結果	●定期練習 島根小音楽室	－	－	85 回	3,230 人	－
	水曜:17 時 30 分～19 時 30 分、 土曜:9 時～13 時または 13 時～17 時に練習している					
	●楽団活動					
	入団式	－	－	1 回	50 人	－
	4 月 8 日(土)午後 島根小					
	友の会総会島根小	－	－	1 回	40 人	－
	5 月 13 日(土)午後 島根小					
	避難訓練	－	－	1 回	50 人	－
	6 月 10 日(土)午後 島根小					
	夏合宿	－	－	1 回	159 人	－
	8 月 12 日(月)～14 日(水)日光林間学園					
	ブラスキッズ	－	－	6 回	141 人	－
	1 月 27 日、2 月 10 日、2 月 24 日、3 月 3 日、3 月 24 日各(土)午前、3 月 25 日(日)午前 島根小・西新井文化ホール					
	楽団説明会	－	－	1 回	5 人	－
	2 月 3 日(土)午後 島根小					
	●自主演奏会					
	サマーコンサート	－	－	2 回	700 人	－
	9 月 2 日(土)午後 アリオ西新井					
	クリスマスコンサート	－	－	2 回	700 人	－
	12 月 16 日(土)午後 アリオ西新井					
	第 28 回定期演奏会	－	－	1 回	400 人	－
	3 月 25 日(日)午後 西新井文化ホール					
	●派遣演奏／イベント出演					
	興本扇学園開かれた学校づくり協議会主催 花と音楽と茶道の集い	－	－	1 回	400 人	－
	4 月 8 日(土)午前 興本扇学園					
	足立東部地区少年軟式野球連盟主催	－	－	1 回	1,000 人	－

実施結果	①第 38 回足立東部地区少年軟式野球親善大会開会式 ②第 39 回足立東部地区少年軟式野球秋季大会開会式					
	8 月 20 日(日)午前　中川グラウンド					
	全国官公庁野球連盟主催 第 68 回全国官公庁野球大会　開会式	－	－	1 回	1,900 人	－
	8 月 20 日(日)午後　大田スタジアム					
	あだちﾌﾞﾗｽﾊﾞﾝﾄﾞﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ実行委員会主催 あだちﾌﾞﾗｽﾊﾞﾝﾄﾞﾌｪｽﾃｨﾊﾞﾙ 2017	－	－	1 回	1,734 人	－
	10 月 8 日(日)午後　西新井文化ホール					
	公益財団法人足立区体育協会主催 第 70 回足立区民体育大会　総合開会式	－	－	1 回	524 人	－
	10 月 9 日(月・祝)午前　総合ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ					
	公益財団法人足立区体育協会主催 スポーツカーニバル	－	－	1 回	3,807 人	－
	10 月 9 日(月・祝)午前　総合ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ					
	東京ﾄﾞｰﾑｼﾃｨｱﾄﾗｸｼｮﾝｽﾞ主催 東京ﾄﾞｰﾑｼﾃｨ・ﾊﾛｳｨﾝｷｯｽﾞﾊﾟﾚｰﾄﾞ 2017(荒天中止)	－	－	荒天により中止	－	－
	10 月 28 日(土)午前・午後　東京ドームシティアトラクション内					
	三星保育園主催　三星こどもバザー	－	－	1 回	300 人	－
	11 月 5 日(日)午前　三星保育園					
	島根小開かれた学校づくり協議会主催 もちつき大会	－	－	1 回	300 人	－
	2 月 24 日(土)午前　島根小					
	①　区内の小学生 4～6 年生等 38 名の団員が在籍し、島根小学校音楽室を拠点として、団長をはじめ、経験豊かな指導者のもと、週 2 回(水・土)の練習に励んでいる。 ②　今年度は新たに「足立東部地区少年軟式野球大会」の開会式から出演依頼があり、迫力ある演奏を披露した。					

≪事業評価と課題への対応≫

区内外の派遣演奏について、毎回依頼先からは高い評価を得ており、毎年定着した演奏依頼を受けている。区の方針に沿った運営と調整を図りながら、楽団の支援を継続していくと同時に、将来的な方針について区へ協議を働きかけていく必要がある。

		予算現額			324,000 円	
		執行額			211,720 円	
(7)足立ジュニア吹奏楽団派遣演奏支援(楽器運搬) 定款第 4 条第 1 項第 3 号 (1)地域学習・団体活動支援 ②文化団体等支援		予定回数／目標人数		実施結果		達成
		3 回	－	3 回	－	－
概要	足立ジュニア吹奏楽団の派遣演奏に伴う楽器運搬費用の支援					
目的	足立ジュニア吹奏楽団の派遣演奏を円滑に行う。					
実施結果	アリオ西新井　サマーコンサート	1 回	－	1 回	－	－
	9 月 2 日(土)午後　アリオ西新井					
	公益財団法人足立区体育協会主催 第 70 回足立区民体育大会総合開会式 およびスポーツカーニバル	1 回	－	1 回	－	－
	10 月 9 日(月・祝)午前　総合スポーツセンター					
	アリオ西新井　クリスマスコンサート	1 回	－	1 回	－	－
	12 月 16 日(土)午後　アリオ西新井					
≪事業評価と課題への対応≫ 公社による楽器運搬費の支援により、円滑な派遣演奏を実施することができた。今後も楽団への支援を継続していく。						

		予算現額			2,128,000 円	
		執行額			1,504,140 円	
(8)コンサート in ミュージアム 定款第 4 条第 1 項第 1 号 (2)文化イベント ①コンサート		予定回数／目標人数		実施結果		達成
		4 回	200 人	4 回	199 人	◎
概要	区内4か所の民間文化施設で実施するコンサート					
目的	①　各施設の魅力とその特性を活かした良質の音楽を区民に提供する。 ②　4施設をつなぎコンサートを実施することにより、区民への文化発信の相乗効果を図る。 ③　各施設の主体性を高めていく。					
実施結果	「-伝統を受け継ぐ「和」の心×音色-」	1 回	50 人	1 回	49 人	－
	4 月 2 日(日)午後　昭和の家〈平田邸〉 出演:中村仁樹氏(尺八)、中島裕康氏(箏)					
	「-弦の調べに合わせて動物たちが歌いだす-」	1 回	50 人	1 回	56 人	－
	7 月 10 日(月)午後　石洞美術館 出演:西山健一氏(チェロ)、西山真二氏(コントラバス)、冨沢由美氏(ヴァイオリン)					
	「～冬を彩る絵画とバリトンの共鳴～」	1 回	50 人	1 回	51 人	－
	12 月 4 日(月)午後　六町ミュージアム・フローラ					

	出演：小林大祐氏（バリトン）、辻田祐希氏（ピアノ）					
	「～春を寿ぐ江戸の粋～」	1回	50人	1回	43人	－
	2月4日(日)午後　わたなべ音楽堂＜ベルネザール＞ 出演：松本優子氏(お囃子)、鏡味味千代氏(太神楽)、古今亭今いち氏（落語）　ほか					
	①　昭和の家＜平田邸＞は、満開のしだれ桜を背景に、和をテーマに、若い演奏家による尺八と箏のコンサートを行った。石洞美術館では、区内在住であり、N響メンバーの双子の兄弟「Duo Twins」による弦楽器(チェロとコントラバス)の豊かな響きを披露した。六町ミュージアム・フローラでは、区内に在住経験のあるバリトン歌手を迎え、迫力ある歌声を館内に響かせた。わたなべ音楽堂＜ベルネザール＞では、これまでの音楽というジャンルから趣向を変え、お囃子、太神楽、落語という斬新な組み合わせでの催し物を企画し、好評を得た。 ②　4館の施設を紹介したリーフレットをリニューアルし、各館の知名度や事業のPRに繋げた。 ③　コンサート当日の運営面の役割分担を一部施設に委ね、主体性や意識の向上に努めた。					
≪事業評価と課題への対応≫ 毎回、参加者からのアンケート結果からも質、内容ともに満足度の高い評価を得ている。連携する4館の施設館で、当日の運営支援や、備品等の借用など、相互の協力体制が図られた。今後は、さらに、施設運営の主体性を高めるための、助言、支援をしていく。 30年度は、5館目の新たな拠点として「BUoY　北千住アートセンター(千住仲町)」が加わることが決定した。これまで4館の施設の広さにより、参加人数の限界があったが、このことにより、事業回数、参加人数の増が図られる。						

(9)あだちアートリンクカフェ・フェスティバル 定款第4条第1項第1号 (2)文化イベント ①コンサート	予定回数／目標人数		実施結果		達成
	1回	280人	1回	342人	◎

概要	あだちアートリンクカフェで出会ったアーティストのネットワークを活用したコンサート。					
目的	①　あだちアートリンクカフェの成果を区民に還元し、足立区の文化振興に寄与する。 ②　出演アーティストが、区内在住など、区との所縁を紹介することにより、区民のシビルプライドの向上を図る。					
実施結果	「―出会いがつなぐ芸術の旅―」	1回	280人	1回	342人	－
	6月11日(日)午後　東京芸術センター 出演：大前恵子氏（ソプラノ）、大橋弘美氏（フルート）、茨木智博氏（トランペット、オカリナ）、西田幹氏（バストロンボーン）、白石光隆氏（ピアノ）、ハルキ氏（活動弁士）、パーツ・イシバ氏（パントマイム）、小久江峻氏（画家・アーティスト） 協力：松田豊氏（オフィス・アゲイン代表）、胡舟ヒフミ氏（ポスターデザイン）、小林あか里氏（アートスペース　ココノカ代表）					
	①　あだちアートリンクカフェで出会った区内在住または区に所縁のある出演者により、様々な分野の文化芸術が一堂に会する独創的な構成で実施した。 ②　開演時の事業説明や出演者がリレー式に自身と区にまつわる話を織り込んだ。					

≪事業評価と課題への対応≫

あらためて地域への愛着心と誇りを喚起した。(アンケートによる意見)

今後同様の企画を実施する場合、公演内容の向上を図るため、技術(音響、照明、舞台監督等)スタッフを専門家に依頼する必要がある。

	予算現額			1,374,000 円		
	執行額			1,367,342 円		
(10)小学校アウトリーチコンサート 定款第4条第1項第1号 (3)生涯学習啓発 ①アウトリーチ等	予定回数/目標人数		実施結果		達成	
	14回	392人	16回	501人	◎	

概要	小学生を対象に、生演奏の体験と演奏家とのコミュニケーションにより音楽への関心を醸成するコンサート					
目的	① 間近でプロの演奏家の生演奏と働きかけにより音楽への興味関心を導き出す。 ② 生涯にわたり音楽に親しむ豊かな人間性を育む。					
実施結果	渕江小	3組	84人	3組	86人	−
	9月13日(水)午前 出演:浜まゆみ氏(マリンバ)、クリス・フロー氏(パーカッション)					
	千寿第八小	3組	84人	3組	77人	−
	9月14日(木)午前 出演:浜まゆみ氏(マリンバ)、クリス・フロー氏(パーカッション)					
	鹿浜五色桜小	3組	84人	3組	92人	−
	10月12日(木)午前・午後 出演:奥田なな子氏(チェロ)、白石光隆氏(ピアノ)					
	梅島小	3組	84人	3組	136人	−
	10月13日(金)午前・午後 出演:奥田なな子氏(チェロ)、白石光隆氏(ピアノ)					
	高野小 2/7 事前レクチャー	2組	55人	2組	55人	−
	1月15日(月)午前 出演:吉田絵奈氏(鍵盤ハーモニカ)					
	高野小	2組	55人	2組	55人	−
	2月7日(水)午前 出演:吉田絵奈氏(鍵盤ハーモニカ)、藤谷一郎氏(コントラバス、ベース)					
	① 実際にマリンバや太鼓に触れる体験や、チェロの床から伝わる振動を体感し、ピアノの「解体ショー」で音の鳴る仕組みを学んだ。コントラバスの低音の深い響きを間近で感じた。東日本大震災の津波で倒された陸前高田市の松の流木で作られた特別な「木製の鍵盤ハーモニカ」による演奏は、印象深く心に刻まれ、貴重な体験となった。 ② 児童たちは、どのコンサートでも初めて見る楽器に興味津々で、身体を使ったリズム遊び					

	などにより、プロの演奏を間近で見聞きし、笑顔とともに身体全体で楽しんでいる様子が伺えた。

≪事業評価と課題への対応≫

コンサートは、1 クラス単位の少人数で開催し、間近で、見たり、聴いたり、感じたりすることで、生演奏の素晴らしさ、音楽の楽しさを伝えることができた。児童のアンケートからは、「本物はすごいと思った」、「私ももっと練習してうまくなりたいと思った」などの声が寄せられ、プロの演奏ならではの効果と音楽への興味を広げることができた。

教員からは、「生の演奏に魅了され、児童たちの目がキラキラしていた」、「コンサート後の授業では、意欲的に学習する児童が増えた」、「事前学習としてチェロのCDを聴かせていたが、やはり生演奏の迫力とすごさに感動した」などのご意見をいただいた。

今回、初めての試みとして鍵盤ハーモニカのコンサートでは、開催日の数日前に出演者と事業との出会いの機会を設けた。コンサートの予告と演奏、鍵盤ハーモニカの上手な引き方などを事前に教わるなど、本番コンサートへの期待感をさらに高め、感動を最大限に印象深いものとすることができた。

今後は、より事業効果を高めていくため、学校との連携や実施内容をさらに検討していく。

≪目標達成度≫
◎･･･90%以上
○･･･70%～90%未満
△･･･70%未満

3　生涯学習・スポーツ事業

生涯学習･スポーツ事業　経費	予算現額	1，206，000 円
	執行額	1，012，055 円

		予算現額		558，000 円		
		執行額		473，907 円		
(1)あだちこどもサポーター養成講座 定款第 4 条第 1 項第 2 号 (1)地域学習活動人材育成 ①安全管理員等地域人材育成		予定回数／目標人数		実施結果		達成
		5 回	124 人	5 回	94 人	○
概要	子どもの体験･交流活動に関わる地域人材の育成講座					
目的	①　地域人材を発掘･育成する。 ②　子どもの活動をサポートしている地域人材の指導力の向上を図る。					
実施結果	読み語りのためのﾎﾞｲｽﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ講座《5 日制》	1 回	20 人	1 回	20 人	－
	5 月 22 日～6 月 26 日(毎月曜) 午前　生涯学習センター　※6/26 発表体験･午後 講師:山下芳子氏(足立区演劇連盟、演出家)　※往復はがき申込み者数:61 人					
	キッズあそびサポーター講習会《2 日制》	1 回	30 人	1 回	18 人	－
	7 月 13 日･20 日(毎木曜) 午前　生涯学習センター 講師:三浦一朗氏(日本レクリエーション協会　公認レクリエーションコーディネーター)					
	男性のための読み語りﾎﾞｲｽﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ体験講座	1 回	30 人	1 回	18 人	－
	9 月 3 日(土) 午前　梅田地域学習センター 講師:山下芳子氏(足立区演劇連盟、演出家)					
	子どもと遊ぶおりがみ教室　第 10 期《5 日制》	1回	24 人	1 回	23 人	－
	10 月 4 日～11 月 1 日(毎水曜)午前　生涯学習センター　※10/25 実習･午後　花畑小、皿沼小 講師:西川光惠氏(日本折紙協会認定講師･心理カウンセラー)					
	運動あそびリーダー講習会	1回	20 人	1 回	15 人	－
	1 月 28 日(日)午前　生涯学習センター 講師:篠原俊明氏(東京未来大学講師、ｽﾎﾟｰﾂ庁「子供の体力向上課題ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ」ﾒﾝﾊﾞｰ)					
	①　読み語りのためのボイストレーニング修了者は、20 人中 14 人が「読み語りキャラバン隊」に加わり、子どもと遊ぶおりがみ教室は 23 人修了し 20 人が、「おりがみサポーター」として放課後子ども教室で活動を開始した。 ②　すぐに現場で役立つレクリエーションゲームや運動あそびのメニューと指導法を学ぶ講座を提供し、地域で子どもに関わる活動をしている方々のスキルアップを支援した。					

≪事業評価と課題への対応≫

養成講座では、実際に子どもたちと関わる実習を組み込んでおり、この体験により実際の活動への動機づけが強まっていると考えている。講座修了者には、活動の場への調整と技術向上などの支援を行い、子どもの体験活動支援者として育成していく。

(2)あだちこどもサポータースキルアップ講座 定款第 4 条第 1 項第 2 号 (1)地域学習活動人材育成 ①安全管理員等地域人材育成	予定回数／目標人数		実施結果		達成
	2 回	56 人	3 回	69 人	◎

概要	こどもサポーター活動に必要なスキルアップ支援講座					
目的	①　サポーター活動に必要な技術の向上を図る。 ②　こどもの体験・交流活動を支えるサポーター活動の継続に役立つ研修機会を提供する。					
実施結果	ボイストレーニングスキルアップ講座	1 回	20 人	1 回	12 人	－
	9 月 14 日(木)午前　生涯学習センター 対象:今年度講座修了者 講師:山下芳子氏(足立区演劇連盟、演出家)					
	おりがみサポーター活動フォロー講座	1 回	15 人	1 回	9 人	－
	10 月 18 日(水) 午前　生涯学習センター 対象:前年度講座修了者 講師:西川光惠氏(日本折紙協会認定講師・心理カウンセラー)					
	おりがみサポーターレベルアップ講座《2 日制》	1 回	50 人	1 回	48 人	－
	11 月 29 日・12 月 6 日(毎水曜) 午前 生涯学習センター 対象:サポーター活動継続者 講師:西川光惠氏(日本折紙協会認定講師・心理カウンセラー)					
	①　活動開始後 1 年以内の方を対象に、技術向上の学習機会を提供した。 ②　新たな知識・技術を得るための学習機会を提供して、活動の継続化を促す支援としている。					

≪事業評価と課題への対応≫

こどもサポーター養成講座から地域活動につながった人材が、更に活動に必要な技術を学び、学習成果を活動に還元していくサイクルとして有効な事業となっている。

<table>
<tr><td colspan="2">（3）あだちこどもサポーターフォロー講座
定款第 4 条第 1 項第 2 号
(1)地域学習活動人材育成
①安全管理員等地域人材育成</td><td>予定回数／目標人数</td><td></td><td>実施結果</td><td></td><td>達成</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>2 回</td><td>60 人</td><td>2 回</td><td>50 人</td><td>○</td></tr>
<tr><td>概要</td><td colspan="6">こどもサポーター活動を継続するための意識啓発講座</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="6">① 活動のモチベーションの向上を図る。
② ボランティアとしての基礎知識と活動姿勢を身に着ける研修機会を提供する。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実施
結果</td><td>サポーターフォロー講座Ⅰ
「ボランティア活動とは」
～子どもと私が笑顔でいられるために～</td><td>1 回</td><td>30 人</td><td>1 回</td><td>12 人</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="6">10 月 19 日(木) 生涯学習センター
対象:放課後子ども教室体験サポーター
講師:髙井正氏 氏(立教大学特任准教授/元足立区社会教育主事)</td></tr>
<tr><td>サポーターフォロー講座Ⅱ
「楽しい子どもとの接し方」
～やる気を伸ばす声かけの仕方～</td><td>1 回</td><td>30 人</td><td>1 回</td><td>38 人</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="6">10 月 31 日(火) 生涯学習センター
対象:放課後子ども教室体験サポーター
講師:藤後悦子氏(東京未来大学教授)</td></tr>
<tr><td colspan="6">① ボランティア活動の意義や心構えについて学び、自らの活動の振り返りの機会となった。
② 子どもへの対応について学ぶことで、活動の中で感じる疑問や悩みを整理する機会となった。</td></tr>
<tr><td colspan="7">≪事業評価と課題への対応≫
子どもたちに関わる活動の意義と、活動で留意すべき事項などを学ぶ機会を設けた。参加者から意識・意欲の向上につながったとする声も多くあり、活動継続を促す事業として有効であり、今後も内容を検討しながら実施していく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">（4）あだちこどもサポーター活動支援（随時）
定款第 4 条第 1 項第 2 号
(1)地域学習活動人材育成
①安全管理員等地域人材育成</td><td>予定回数／目標人数</td><td></td><td>実施結果</td><td></td><td>達成</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>随時</td><td>－</td><td>265 回</td><td>938 人</td><td>－</td></tr>
<tr><td>概要</td><td colspan="6">こどもサポーター活動の始動や継続化のコーディネート、活動課題に対するアドバイス等
※活動場所調整(放課後子ども教室実行委員会・スタッフ・保育園・高齢者施設等)</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="6">① サポーターの活動場所を確保し定期活動につなげる。
② サポーターの主体的活動への発展を目指す。</td></tr>
<tr><td rowspan="4">実施
結果</td><td>おりがみサポーターの活動の支援(22 校)</td><td>－回</td><td>－人</td><td>238 回</td><td>838 人</td><td>－</td></tr>
<tr><td>読書支援サポーター活動の支援 (2 校)</td><td>－回</td><td>－人</td><td>21 回</td><td>21 人</td><td>－</td></tr>
<tr><td>読み語りキャラバン隊活動の支援(自主公演)</td><td>－回</td><td>－人</td><td>6 回</td><td>79 人</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="6">① サポーターを、放課後子ども教室「体験プログラム」の活動へつなぎ、放課後スタッフや学校</td></tr>
</table>

	との連絡調整など活動継続の支援を行っている。29 年度は、おりがみ・読書支援サポーター計 27 校での定期活動を支援した。 ② 「読み語りキャラバン隊」の自主活動の支援として、地域イベントや保育園・デイサービスなど活動場所の情報提供・日程調整などを行っている。
≪事業評価と課題への対応≫ 活動のコーディネートを通じて、年間延べ 938 人のサポーターが活躍する場を支援できた。	

(5)あだちこどもサポーターネットワーク支援 定款第 4 条第 1 項第 2 号 (1)地域学習活動人材育成 ①安全管理員等地域人材育成	予定回数／目標人数		実施結果		達成
	5 回	125 人	11 回	209 人	◎

概要	各サポーター活動での工夫や特色などを学び合う交流会等					
目的	① 活動者相互の情報交換・技術向上。 ② 自主活動を促進し、区民への学習機会の提供につなげる。					
実施結果	おりがみサポーター交流会Ⅰ	―	―	1 回	51 人	-
	6 月 7 日(水)午前 生涯学習センター 対象:サポーター活動中の方、活動を希望している方					
	読み語りキャラバン隊・練習会	―	―	8 回	74 人	-
	4 月～2 月 定期・随時 生涯学習センター 対象:読み語りキャラバン隊自主グループ					
	読み語りキャラバン隊・活動連絡会	―	―	1 回	21 人	-
	2 月 22 日(木)午前 生涯学習センター 対象:今年度読み語りキャラバン隊加入者・自主グループ					
	おりがみサポーター交流会Ⅱ	―	―	1 回	63 人	-
	2 月 28 日(水)午前 生涯学習センター 対象:サポーター活動中の方、活動を希望している方					
	① おりがみサポーター交流会では、サポーター自身が交代して講師役を担い、活動報告やおりがみの指導を行う形で実施し、相互に学び合いながら情報共有を図った。 ② 自主活動グループ「読み語りキャラバン隊・きらきら」の活動連絡会を実施し、29 年度新規メンバーを自主グループにつないだ。					
≪事業評価と課題への対応≫ 各校で活動しているおりがみサポーターは、通常は小グループでの活動になるため、全体で交流する機会を創り、活動での課題や工夫について情報交換を行っている。各々の活動に直ぐに活かすことができると好評で、2 回とも活動者の6割超が集まり、交流会としては参加率が高いと考える。会の進め方については、サポーター自身の自発的な学習活動を促すよう、毎回、意見交換を行いながら合意形成を図り決定している。 「読み語りキャラバン隊・きらきら」は、自主公演の機会が広がってきている。今年度は保育園や高齢者施設で定期的に自主活動を開始し、公社の支援によらない活動への取り組みが始まっている。						

	予算現額			234,000 円		
	執行額			177,582 円		
(6)ｽﾎﾟｰﾂ指導者ｽｷﾙｱｯﾌﾟ講習会≪区受託≫ ～運動機能向上のためのﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(高齢者)～ 定款第 4 条第 1 項第 5 号 (3)体力向上支援人材育成 ①指導者養成他	予定回数／目標人数		実施結果		達成
	4 回	120 人	4 回	154 人	◎

概要	高齢者を指導する地域スポーツ指導者や高齢者に関わる活動に携わる方を対象とした運動指導の実践講習会					
目的	① 地域指導者等のスキルアップの機会を通して、区民の健康体力づくりを推進する。 ② 「運動あそび」の実践方法を習得し、楽しく効果的な機能向上プログラムを普及する					
実施結果	基礎理論編	1 回	30 人	1 回	42 人	－
	4 月 29 日(金・祝)午前 生涯学習センター 講師:田中秋乃氏(健康運動指導士/日本コアコンディショニング協会マスタートレーナー)					
	実践指導者編	1 回	30 人	1 回	41 人	－
	4 月 29 日(金・祝)午後 生涯学習センター 講師:田中秋乃氏(健康運動指導士/日本コアコンディショニング協会マスタートレーナー)					
	基礎理論編	1 回	30 人	1 回	36 人	－
	11 月 3 日(木・祝)午前 生涯学習センター 講師:田中秋乃氏(健康運動指導士/日本コアコンディショニング協会マスタートレーナー)					
	実践指導編	1 回	30 人	1 回	35 人	－
	11 月 3 日(木・祝) 午後 生涯学習センター 講師:田中秋乃氏(健康運動指導士/日本コアコンディショニング協会マスタートレーナー)					
	① 高齢者の身体特性など、運動指導に必要な理論を学習した。 ② コオーディネーショントレーニングの理論を踏まえたプログラム作りと、グループワークでの指導体験を行った。					

≪事業評価と課題への対応≫

指導の実践力アップが図られるとともに、受講者同士の交流機会にもなっている。区公認スポーツ指導員の参加も多く、活動に活かせる講習会であると好評である。オ

また、活動希望者への情報提供や個別アドバイスにも対応しているところだが、今後は更に、スポーツ振興課事業と連動した内容を加え活動支援に取り組んでいく。

(7)ｽﾎﾟｰﾂ指導者ｽｷﾙｱｯﾌﾟ講習会≪区受託≫ ～運動あそびと体力向上ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ(子ども)～ 定款第4条第1項第5号 (3)体力向上支援人材育成 ①指導者養成他	予定回数／目標人数		実施結果		達成
	4回	120人	4回	74人	△

概要	子どもを指導する地域スポーツ指導者や保育・学校体育等に携わる方を対象とした運動指導の実践講習会					
目的	① 地域指導者等のスキルアップの機会を通して、区民の健康体力づくりを推進する。 ② 「運動あそび」の実践方法を習得し、楽しく効果的な体力向上プログラムを普及する。					
実施結果	基礎理論編・幼児指導	1回	30人	1回	21人	－
	7月9日(日)午前　生涯学習センター 講師:小林宜義氏(日本体育協会公認コーチ/川崎市立小学校特別支援級講師)					
	実践指導編・幼児指導	1回	30人	1回	21人	－
	7月9日(日)午後　生涯学習センター 講師:小林宜義氏(日本体育協会公認コーチ/川崎市立小学校特別支援級講師)					
	基礎理論編・小学生指導	1回	30人	1回	16人	－
	12月9日(木・祝)午前　生涯学習センター 講師:小林宜義氏(日本体育協会公認コーチ/川崎市立小学校特別支援級講師)					
	実践指導編・小学生指導	1回	30人	1回	16人	－
	12月9日(木・祝)午後　生涯学習センター 講師:小林宜義氏(日本体育協会公認コーチ／川崎市立小学校特別支援級講師)					
	① 現代の子どもの体力に関する課題や、発育・発達と運動との関係について学習した。 ② コオーディネーショントレーニングの理論を踏まえた「運動あそび」を体験し、実践指導に活かせる学習機会とした。					

≪事業評価と課題への対応≫

子どもの体力向上が課題として叫ばれているところで、運動指導に関わる人材のスキルアップは必須であり、本講習会の意味は大きい。新しい情報を取り込みながら内容を精査するとともに、子どもの活動に関わる多くの指導者の受講拡大に向け、スポーツ振興課、体育協会との連携をこれまで以上に深めて対象となりそうな方へ確実に伝えるなど、周知・受付方法等を検討する。

		予算現額		300,000 円		
		執行額		284,498 円		
(8)健康づくり･スポーツ活動支援講座 定款第 4 条第 1 項第 3 号 (1)地域学習･団体活動支援 ①地域学習支援		予定回数／目標人数		実施結果		達成
		2 回	80 人	2 回	76 人	◎
概要	健康づくり･スポーツ活動や、そのサポートをする人の学習を支援する講座					
目的	① 生涯スポーツを楽しく安全に継続するためのトレーニング理論を学ぶ機会を提供する。 ② スポーツ科学の第一線の講師による最新情報を提供する。					
実施結果	スポーツコンディショニング講座 ～ﾊﾟﾌｫｰﾏﾝｽ向上のための最新ｺﾝﾃﾞｨｼｮﾆﾝｸﾞ論～	1 回	30 人	1 回	26 人	－
	2 月 3 日(土)午前 生涯学習センター 講師:一原克裕氏 (NPO 法人スポーツセーフティジャパン/アスレティックトレーナー)					
	あだちウェルネスカレッジ Vol.9 ～食×運動でカラダづくり･スタミナづくり～	1 回	50 人	1 回	48 人	－
	3 月 17 日(土)午前 生涯学習センター 講師:馬淵恵氏 (一般社団法人食アスリート協会/日本体育協会公認スポーツ栄養士)					
	① スポーツ生理学、解剖学、トレーニング学の見地から、自らの身体のチェック方法とケガを予防し安全にスポーツを楽しむためのコンディショニング理論を学んだ。 ② カラダづくりに不可欠な「食べる力」について、スポーツ栄養士から最新情報を学んだ。 一時的なブームや断片的な情報に左右されることなく、必要な栄養を摂取することの意味と効果について理解を深められた。					
≪事業評価と課題への対応≫ スポーツ実践者が、生涯を通じて安全にスポーツに取り組むため、「身体」について学ぶ機会を提供している。テーマや講師選定においては、公社スポーツ分野の専門性を活かして実施しており、今後も区民の健康づくり･スポーツ活動の継続化を支援するため、スポーツ科学の最新情報の提供を行っていく。						

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">(9)地域活動支援講座
定款第 4 条第 1 項第 3 号
(1)地域学習･団体活動支援
①地域学習支援</td><td colspan="2">予定回数／目標人数</td><td colspan="2">実施結果</td><td>達成</td></tr>
<tr><td>2 回</td><td>60 人</td><td>2 回</td><td>70 人</td><td>◎</td></tr>
<tr><td>概要</td><td colspan="6">地域活動に関わる人の学習を支援する講座</td></tr>
<tr><td>目的</td><td colspan="6">子どもに関わる大人が、それぞれの活動に活かせる知識を習得する。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">実施結果</td><td>子ども学講座Ⅰ《2 日制》
(子どものことを考える大人の勉強会)
～集団生活にうまくなじめない小学生の
理解のために～</td><td>1 回</td><td>30 人</td><td>1 回</td><td>43 人</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="6">8 月 7 日(月)、8 日(火) 午前　生涯学習センター
講師:藤後悦子氏(東京未来大学教授)</td></tr>
<tr><td>子ども学講座Ⅱ≪2 日制≫
(子どものことを考える大人の勉強会)
～思春期のコミュニケーション～
「なぜあなたはそうなの？思春期を知ろう」
「知れば役立つコミュニケーション技術」</td><td>1 回</td><td>30 人</td><td>1 回</td><td>27 人</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="6">3 月 13 日･20 日(毎火曜)午前　生涯学習センター
「なぜあなたはそうなの？思春期を知ろう」　講師:藤後悦子氏（東京未来大学教授）
「知れば役立つコミュニケーション技術」　講師:磯友輝子氏（東京未来大学准教授）</td></tr>
<tr><td colspan="6">発達心理学、コミュニティ心理学の専門講師から、子どもの発達段階の特徴や課題のある子への対応について学んだ。</td></tr>
<tr><td colspan="7">≪事業評価と課題への対応≫
子どもたちと関わる方々の多くは、日頃から、様々な場面でどのような対応をしたら良いのか悩みながら子どもと接している。子ども学講座では、各発達段階の特性などを学び理解を深めるとともに、対処法について話し合うなど、ワークショップを取り入れ参加者同士が学び合う機会を創っている。受講者からは、課題や悩みが共有でき、自身の活動の振り返りにもなったとの感想が多くあり、今後もアンケート等を参考にテーマ設定を工夫して実施していきたい。</td></tr>
</table>

	予算現額		― 円			
	執行額		― 円			
(10)地域学習コーディネート事業 定款第 4 条第 1 項第 3 号 (1)地域学習・団体活動支援 ①地域学習支援	予定件数／目標		実施結果		達成	
	―	―	5 件	―	-	

概要	地域団体等が実施する学習会などの企画相談に応じ、講師紹介等を行う学習活動の相談窓口
目的	地域での主体的な学習活動の活性化を図る。
実施結果	コオ―ディネーショントレーニング研修会講師紹介(足立区トランポリン協会)
	子ども対象運動指導者派遣相談(千住あずま住区センター)
	おりがみサポーター紹介(あだちこども食堂)
	健康体操指導者派遣相談(綾瀬なないろ園)
	コオ―ディネーショントレーニング事業の開催方法相談 (北海道雨竜郡沼田町教育委員会)
	相談者の事業趣旨に即し、学習成果の向上につながる提案や講師紹介等を行った。
≪事業評価と課題への対応≫ より効果的な学習活動につながる支援をめざして、企画提案を行いたい。	

	予算現額		114, 000 円			
	執行額		76, 068 円			
(11)読み語りキャラバン隊*によるおはなし会 定款第 4 条第 1 項第 1 号 (1)体験プログラムの提供 ①体験プログラム等	予定回数／目標人数		実施結果		達成	
	5 回	250 人	5 回	402 人	◎	

概要	地域の施設を巡回し、子どもや親子に読書に親しんでもらう機会を提供するイベント型おはなし会					
目的	① 本や言葉に対する子どもの興味関心を高める。 ② 親子や友だちと本を介した共有体験を通して、コミュニケーションの機会を創る。					
実施結果	生涯学習センター	1回	50 人	1回	69 人	-
	6 月 26 日(月)午後					
	やよい図書館	1回	50 人	1回	24 人	-
	9 月 21 日(木)午後					
	小倉幼稚園	1回	50 人	1回	132 人	-
	11 月 9 日(木)午後					
	鹿浜住区センター	1回	50 人	1回	51 人	-
	12 月 14 日(木)午後					
	八千代幼稚園	1回	50 人	1回	126 人	-
	2 月 8 日(木)午後					
	① 言葉遊びや大型絵本、歌や手遊びなど楽しい演目で、興味を持たせるおはなし会を実施した。 ② 「読み語りキャラバン隊」は体験型おはなし会のスタイルをとっており、参加者も一緒に楽し					

	む演目が盛り込まれている。体験を共有することで、コミュニケーションを促進するねらいを持っている。

≪事業評価と課題への対応≫

参加型の演目を通して、一緒に考える・笑う・同時に声を出すなど‘同調’の機会を創っている。これらの共有体験は、相互のコミュニケーションを円滑にし信頼関係を築く上で大切な体験であると言われている。また、おはなし会実施の担い手となる人材を、育成する場としても活用し継続していく。

※「読み語りキャラバン隊」は、こどもサポーター養成講座を修了し、活動希望者で編成。29 年度も新規に 14 人が活動に加わった。

＊読み語りキャラバン隊：区内各地を回って子どもたちに読み聞かせなどを行うボランティアグループ

≪目標達成度≫
◎･･･90%以上
○･･･70%～90%未満
△･･･70%未満

4　広報事業

広報事業　経費	予算現額	6，365，000　円
	執行額	5，637，600　円

	執行額		4，795，200　円		
(1)公社ニュース「ときめき」での自主事業等情報発信 定款第 4 条第 1 項第 1 号 (4)学習情報提供①公社ニュース･ホームページ等作成	予定回数／目標		実施結果		達成
	通年	－	通年	－	◎

概要	公社事業や「あだち放課後子ども教室」関連情報等を発信する。
目的	公社事業を広く区民に周知する。
実施結果	毎月1日発行、区内全戸配布（月 31 万部発行）した。 毎月、自主事業（学習･スポーツ事業、文化事業）の募集案内や、あだち放課後子ども教室コラムを掲載した。

≪事業評価と課題への対応≫
　募集案内はすべて掲載し、放課後子ども教室事業の紹介もできた。今後も継続して募集案内及び放課後子ども教室コラムの掲載を行い、公社事業を周知する。

	執行額		842，400　円		
(2)公社ホームページによる情報提供事業 定款第 4 条第 1 項第 1 号 (4)学習情報提供①公社ニュース･ホームページ等作成	予定回数／目標		実施結果		達成
	通年	－	通年	－	◎

概要	公社概要や事業案内などの情報提供を行う。
目的	公社事業への興味関心を高める。
実施結果	事業案内、事業報告などの情報を随時（月2～3回）掲載した。アクセス数は、月平均1，557回であった。 公社の財務諸表を公表した。

≪事業評価と課題への対応≫
　事業風景等を撮影した写真を中心に講座レポートを掲載した。また、「ときめき」では紹介しきれない情報をホームページに掲載し、詳細な案内を行った。

５　その他

公益目的事業に対する人件費

公益目的事業に対する人件費　経費	予算現額	256, 200, 000 円
	執行額	256, 162, 726 円

(1)公益目的事業に対する人件費 定款事業別体系 1～4	執行額	256, 162, 726 円
概要	定款第4条第1項事業である「公益目的事業」を実施する職員の人件費	

その他前号に定める事業に関連する事業

その他前号に定める事業に関連する事業　経費	予算現額	54, 128, 000 円
	執行額	52, 314, 462 円

(2)公益財団法人の経営管理、組織･人事管理、 財務運営　定款第4条第 2 項第 4 号【法人会計】	執行額	52, 314, 462 円
概要	理事会や評議員会の開催及び庶務事務 基本財産等の安全確実な資産運用及び経理事務	